

<原著>

都市近郊緑地における緑地管理団体の発足形態と
活動の継続性に関する研究

上田早織¹ 栗田和弥² 下嶋 聖³ 麻生 恵²

**A Study of the Succession for the Green Volunteer Activities and the Established
Green Volunteer Groups in the Green Spaces near the Urban Area**

Saori Ueda¹, Kazuya Kurita², Hijiri Shimojima³, Megumi Aso²

Abstract

Recent demand for management of green volunteer is rising as the citizen's recreation and nature studies activities are increasing contributing to local society in urban fringe green environment. Activities of green volunteers, may substitute the local government, in order to conserve such as rare plant species, encourage activities that promote citizens communication and undertake the management of events concerning green environment have been expanded. On the other hand, it is indicated that activities are in a decline due to the aging of the organizations and the limited acceptance of activities by new participants.

At the research site, Machida City, Tokyo, feature of the established situation concerning green volunteer are found to be different. The purposes of the present research, existing all organizations were classified according to the status of their establishment, aiming at acquiring the essential knowledge for future official support by evaluating both positivity and indifference for every classification. As a result of the research, organizations have been classified according to the status of their establishment and new evaluation methods ensuring continuity of organizations have been conducted.

1. 研究の背景と目的

雑木林や里山などの都市近郊に位置する緑地は、高度経済成長期に宅地造成の対象となり、大幅にその量が減少した¹⁾。行政による保全への取り組みが進められる中で、1995年の都市緑地保全法の一部改正により、緑地を確保していくための仕組みが推進された。住民による保全運動も盛んになり、今日残された緑地の多くが住民組織によって管理されている。こうした背景から生まれた緑地管理団体（公園愛護会²⁾等）は、地域住民

の交流促進のためにイベント運営を行い、希少種の保全のために緑地の管理を行うことで活動を多様化させてきた。高齢化が進行する現在、高齢者の社会貢献や交流のための受け皿としても、緑地管理団体の役割が注目されてきている^{3) 4)}。

このような緑地保全の分野での市民参加は、社会に認められる制度になり、社会的役割が確保されている一方で、活動そのものに疲労疲弊が見られ、組織が硬直化し閉塞感が漂い、活動が停滞しているといわれている^{5) 6)}。1990年代以降、緑地

1 東京ランドスケープ研究所 Tokyo Landscape Architects, Inc.

2 東京農業大学地域環境科学部 Faculty of Regional Environment Science, Tokyo University of Agriculture

3 東京農業大学短期大学部環境緑地学科

Department of Environment and Landscape, Junior College of Tokyo University of Agriculture

管理の担い手として注目されてきた市民活動も、行政の財政難、高齢化、緑地の管理者不足等の諸問題から、緑地管理団体（以降、「団体」とする）の継続性が担保されにくい状態が顕在化してきた⁷⁾。活動を行う中で、活動に参加するメンバーは定期的に活動に関わるコアメンバーとして定着する傾向が見られ^{5) 8)}、そのコアメンバーによって運営が支えられている面もあるが、新しく入会する人とのコミュニケーションを取りにくくなることや、高齢化によって体力面で継続することが困難となることが懸念される。実際に緑地管理団体の活動をみても、会員が人や自然を相手に満足を感じながら活発に活動をしている団体がある一方で、活動の維持に陰りが見えつつある団体も少なくない。

団体の継続に対する意識についてはすでに藤本(2008)⁹⁾、平松(2011)¹⁰⁾が論じているものの、人材面や財政面で恵まれている都市公園の活動を対象としており、多くの問題を抱えた都市近郊に位置する緑地を対象とした研究はほとんど無い。団体の特性を類型化し、詳細に継続性を把握することが求められている。本研究の対象とする東京都町田市では1980年代以降に発足した団体が数多く、その発足形態ごとに継続性の大きな違いが見られる¹¹⁾。ここでは「継続性」について、「活動が衰退している団体の維持性と、活動を維持している団体の更なる発展」の双方の意味を含むものとする。

そこで、本研究では参与観察調査を用いて団体の発足形態ごとの類型化を行い、この類型ごとの特性を満足感と閉塞感の2つの側面で把握することにより、現在の緑地管理団体が活動の継続を促進していく要因を解明し、新たに発足する団体を支援するための知見を得ることを目的とする。

2. 研究の対象と方法

(1) 研究対象地の選定と概要

本研究では、都市近郊にありつつも貴重な動植物が息息する多摩丘陵に位置すること、緑地保全運動が1980年代の古くから行われ、緑地保全に向けて多くの市民団体が発足し、さらに市の養成機関である市民大学の卒業生から構成される団体等の様々な発足形態の団体が活動していることな

どから町田市（以降、「市」とする）を研究対象地として選定した。町田市内には1,303.7haの樹林地と250.71haの草地在り存在し、それぞれ市域面積の18.2%と3.5%を占める。都市緑地保全法が改正された1995年に、市では市内に美しい緑地景観、歴史環境を有する緑地及び動植物が生育する自然環境を保全するため「緑地保全の森設置要綱」が制定され、公有地を市民が管理していく仕組みを推進してきた。

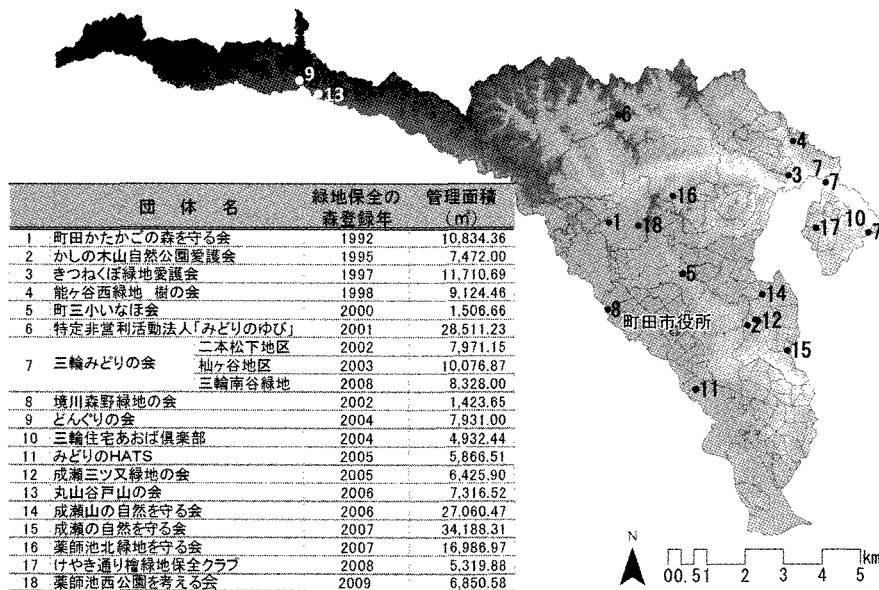
1980年代には、都市近郊の市では住宅開発から緑地を守るため開発を阻止する自然保護運動が生まれ、それが1990年代には緑地管理団体に移行した。やがて市民の緑へのニーズも高まり、資金や労力面での行政の負担を市民が肩代わりするため、市が買収した緑地を対象に市民へ委託管理している。こうして発足した団体のうち、2000年に市へ登録されていた5団体が現在では18団体へ増加し、約22haの緑地で活動が行われている（図-1）。これらの団体は市から助成金や道具の貸し出しの支援、直接的な技術の支援を受けながら、草刈りや希少種の調査など継続して「緑地管理」を行い、市民同士の交流の場を設け「イベント運営」を行っている（表-1）。ところが、新しく発足した団体は緑地管理の知識や技術の習得に苦戦し、発足当初から20年以上もの歳月を掛け維持している団体は、活動の歴史を刻みつつも、新しいメンバーが入りにくい状況もあり、両者共に今後の継続が懸念されている。

(2) 文献調査及び参与観察調査

市から入手した資料や、参与観察調査時に団体から入手した会報や記念誌をもとに、1980年頃から2011年までの団体の活動に対する継続性に関する「活動内容」や「事象」について、団体ごとの経年変化を整理した^{12) 13)}。また、2010年7月から2011年6月まで団体の緑地管理とイベント運営の活動に参加し、団体の会員へ「会員の属性」や「他者との交流」について聴取した（表-2）。

(3) アンケート調査

調査においては緑地管理団体18団体の、団体に登録されている会員のうち、定期的に緑地管理に参加している会員をコアメンバーとし、このコアメンバーを被験者とする有意抽出法を用いた。コアメンバーの抽出については、各団体の代表に



図－1 東京都町田市における緑地管理団体の活動位置図

表－1 緑地管理団体の主な活動内容

活動の分類	活動内容
緑地管理	主に会員で定期的に行っている定例活動を示す。 内容は下草刈り、枝打ち、ゴミ拾い、工作物の作成や補修、 観察会（植生調査）等。緑地管理の合間の昼食も含める。
イベント運営	周辺住民や会員同士で交流促進のために行っている活動を示す。 内容は年中行事、収穫物の提供、ボランティア指導、食事会等。

表－2 参与観察調査の調査回数と調査年月、調査内容について

緑地管理団体名	緑地管理 参加回数(回)	イベント運営 参加回数(回)	調査年月 (2010年7月から 2011年4月まで)	調査内容
1 町田かたかごの森を守る会	4	3	2010年8月、2011年4月	・会員の属性 ・コアメンバー ・緑地の現状 ・活動内容 ・発足の経緯 ・会員同士、近隣住 民、市との関わり について等
2 かしの本山自然公園愛護会	2	1	2010年8月	
3 きつねくぼ緑地愛護会	7	6	2010年7月から2011年4月	
4 能ヶ谷西緑地 樹の会	3	2	2010年9月、2011年8月	
5 町三小いなほ会	1	1	2010年10月、2011年4月	
6 特定非営利活動法人 「みどりのゆび」	1	1	2011年2月	
7 三輪みどりの会（三輪緑地 二本松下地区）	1	0	2010年10月	
三輪みどりの会（三輪緑地 柚ヶ谷地区）	1	0	2010年8月	
三輪みどりの会（三輪南谷緑地）	5	2	2010年8月から2010年10月	
8 境川森野緑地の会	4	0	2010年10月	
9 どんぐりの会	1	1	2010年11月	
10 三輪住宅あおば倶楽部	5	0	2010年7月から2011年3月	
11 みどりのHATS	4	0	2010年10月から2011年4月	
12 成瀬三ツ又緑地の会	2	0	2010年9月	
13 丸山谷戸山の会	1	1	2010年10月	
14 成瀬山の自然を守る会	5	2	2010年9月から2011年4月	
15 成瀬の自然を守る会	3	0	2010年9月	
16 薬師池北緑地を守る会	3	1	2010年11月、2011年4月	
17 けやき通り檜緑地保全クラブ	3	0	2010年11月	
18 薬師池西公園を考える会	2	0	2010年10月	
計	58	21		

団体の会員の中からコアメンバーを選定していた
 だき、抽出することとした。回収については、ア
 ンケート用紙と返信用封筒を同封した封筒を各団
 体のリーダーへ会員数配布し、同封済みの返信
 用封筒で郵送していただく方法をとった。調査票
 の配布は直接配布を行い、調査票の回収につい
 ては郵送法を採用した。回収する期間について、
 調査票は2011年7月7日から2011年7月17日
 にかけて届くように配布し、2011年8月1日ま
 でに回収できた調査票を対象とした。

アンケート内容は継続性に関わる①満足感、②
 閉塞感及び属性の3つである。①満足感では5段
 階（「満足している」から「満足していない」）の
 評価とし、それぞれ「会員」「活動内容」「緑地の
 自然や景観」「管理水準」の4項目を設定した。
 ②閉塞感については、交流に対する消極性3項目、
 活動の参加に対する消極性3項目、活動に対する
 疲労感3項目の合計9項目とした（表-3、表-4）。
 加えて、会員の年齢と団体の所属年数の属性が閉

塞感に起因するものと想定されるため、年齢と団
 体への所属年数に関する2つの属性も含めた11
 項目とした。5段階（「思う」から「思わない」）
 で評価してもらうこととした。

また、緑地管理団体の継続性について、満足感
 と閉塞感との因果関係を把握するため、4つの類
 型に対してこの2つの側面から多変量解析を行う
 こととした。まず満足感に対し、4項目を用いて
 会員の活動に対する総合評価をみるため主成分分
 析を適用した。また、閉塞感に対し、9項目（閉
 塞感の項目のうち属性の項目2項目）を用いて、
 会員の閉塞感へ影響を与える共通因子をみるため
 に因子分析を選択した。

3. 結果および考察

(1) 文献調査による継続性の現況

文献調査により、18団体の緑地管理やイベン
 ト運営の「活動内容」や「事象」が時系列で把握
 でき、各18団体は自治会（町内会）・まちだ市民
 大学 HATS・地元有志・特定の団体の母体となる
 組織（以下、母体組織）ごとに、『(活動時におけ
 る) 他者との関わり』『緑地管理の参加状況』に
 ついて違いが認められた。

年代ごとの事象については、市の政策と緑地管
 理団体の活動内容を図で経年変化を表した（図-
 2）。

1980年代には都市近郊において大規模に造成
 され、それに伴い開発による水質汚濁や大気汚染

表-3 満足感に関する質問項目

満足度に関わる項目	(1) 会員に対する満足度
	(2) 活動内容に対する満足度
	(3) 緑地の自然や景観に対する満足度
	(4) 管理水準に対する満足度

表-4 閉塞感に関する質問項目

閉塞感に関わる項目	(1) 会員同士でコミュニケーションを積極的に図っている
	(2) 利用者と積極的にコミュニケーションを図っている
	(3) 市と積極的にコミュニケーションを図っている
	(4) 新規に会員を受け入れるのであれば、経験が浅い者よりも、経験が豊富な者の方が良い
	(5) 緑地管理やイベント運営において、従来のやり方を維持するより、新しいやり方を取り入れるのを好む
	(6) 他の緑地管理団体やまちづくり団体が、緑地管理やイベント運営に加わることに対して抵抗はない
	(7) 緑地管理やイベント運営で疲れを感じない
	(8) 団体の緑地管理やイベント運営に積極的に関わっている
	(9) 新規の活動メニューを作ることに関心がある
	(10) 属性：年齢
	(11) 属性：所属年数

	自然保護の気運が高まる	生涯学習の需要が高まる	自治管理の需要が高まる
	1983 1984 1985 1986 1987 1988 1989 1990 1991 1992 1993 1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011		
町田市における緑に関する施策	<ul style="list-style-type: none"> ■「緑の保全と買収に関する条例」の制定 ■町田市みどり委員会の発足 	<ul style="list-style-type: none"> ■まちづくり法、HATSが開始 ■緑地保全の公益設置委員の制定 ■「高砂基本条例」の制定 	<ul style="list-style-type: none"> ■町田市緑の基本計画」の策定 ■「環境マスタープラン」の策定 ■「都市緑地法」の改正
1. 町田かたかでの森を守る会	<ul style="list-style-type: none"> ■緑地管理（作業・観察会）の開始 ■広域・産院・ベンチ・案内板・樹木管理ラベルの設置 ▲かたかでの森の公開 ★夏期間・手長より換装状況と気候による受付方法のより長き、テレビの取材 	<ul style="list-style-type: none"> ■自然緑の建立 ■緑地管理（作業）の開始 ■緑地管理（作業）の開始 ▲市民大学の研修団体協議会の協力開始 ▲10周年記念行事 	<ul style="list-style-type: none"> ■マニピの発表会 ▲教育者まつりに参加開始 ▲会員同士での交流の開始
2. かしの木山自然公園愛護会	<ul style="list-style-type: none"> ■緑地管理（作業）の開始 ▲自然観察会への参加 ▲会員研修旅行 	<ul style="list-style-type: none"> ■自然緑の建立 ▲他団体と意見交換の開始 ▲夏休みに子供教室の開催 ▲市民大学研修団体のイベントの開始 	<ul style="list-style-type: none"> ■緑地管理（作業）の開始 ▲自然観察会への参加 ▲市民大学の研修団体の協力開始 ▲大学の研修の受け入れ ▲大学の研修の受け入れ
3. きつねくぼ緑地愛護会		<ul style="list-style-type: none"> ■緑地管理（作業・観察会）の開始 ▲小学校の校外学習への参加 ▲市民大学の研修団体の協力開始 ▲市民大学の研修団体の協力開始 	<ul style="list-style-type: none"> ■緑地管理（作業）の開始 ▲市民大学の研修団体の協力開始 ▲市民大学の研修団体の協力開始 ▲市民大学の研修団体の協力開始
4. 熊ヶ谷西緑地 樹の会			<ul style="list-style-type: none"> ■緑地管理（作業）の開始 ▲市民大学の研修団体の協力開始 ▲市民大学の研修団体の協力開始 ▲市民大学の研修団体の協力開始
5. 町三小いなほ会	<ul style="list-style-type: none"> ●ボランティア活動の開始 		<ul style="list-style-type: none"> ■緑地管理（作業）の開始 ▲会員同士での交流
6. 特定非営利活動法人「みどりのゆび」			<ul style="list-style-type: none"> ■緑地管理（作業・観察会）の開始 ▲周辺住民へタケノコの配布 ▲大学の連携
7. 三輪みどりの会			<ul style="list-style-type: none"> ■緑地管理（作業・観察会）の開始 ▲自然観察会への参加 ▲市民大学の研修団体の協力開始 ▲市民大学の研修団体の協力開始
8. 境川森野緑地の会			<ul style="list-style-type: none"> ■緑地管理（作業・観察会）の開始 ▲小学校の校外学習への参加 ▲市民大学の研修団体の協力開始 ▲市民大学の研修団体の協力開始
9. どんぐりの会			<ul style="list-style-type: none"> ■緑地管理（作業）の開始 ■緑地管理（観察会）の開催 ▲周辺住民へ向けたいイベントの開始
10. 三輪住宅おばあちゃん部			<ul style="list-style-type: none"> ■緑地管理（作業）の開始 ▲周辺住民（自治会）との交流の開始 ▲周辺住民へ向けたいイベントの開始
11. みどりのHATS		<ul style="list-style-type: none"> ▲研究会として会員との交流の開始 ●会費の発行開始 	
12. 成瀬三ツ又緑地の会			<ul style="list-style-type: none"> ■緑地管理（作業）の開始 ▲周系団体へ見学 ▲周系団体へ見学 ▲周系団体へ見学
13. 丸山谷戸山の会			<ul style="list-style-type: none"> ■緑地管理（作業）の開始 ▲周系団体へ見学 ▲周系団体へ見学 ▲周系団体へ見学
14. 成瀬山の自然を守る会			<ul style="list-style-type: none"> ■緑地管理（作業・観察会）の開始 ▲周系団体へ見学 ▲周系団体へ見学 ▲周系団体へ見学
15. 成瀬の自然を守る会	<ul style="list-style-type: none"> ■緑地管理（作業・観察会）の開始 ▲周系団体へ見学 ▲周系団体へ見学 ▲周系団体へ見学 	<ul style="list-style-type: none"> ■緑地管理（作業）の開始 ▲周系団体へ見学 ▲周系団体へ見学 ▲周系団体へ見学 	<ul style="list-style-type: none"> ■緑地管理（作業）の開始 ▲周系団体へ見学 ▲周系団体へ見学 ▲周系団体へ見学
16. 栗駒池北緑地を守る会			<ul style="list-style-type: none"> ■緑地管理（作業）の開始 ▲周系団体へ見学 ▲周系団体へ見学 ▲周系団体へ見学
17. けやき通り緑地保全クラブ			<ul style="list-style-type: none"> ■緑地管理（作業）の開始 ▲周系団体へ見学 ▲周系団体へ見学 ▲周系団体へ見学
18. 栗駒池西公園を考える会			<ul style="list-style-type: none"> ■緑地管理（作業・観察会）の開始 ▲周系団体へ見学 ▲周系団体へ見学 ▲周系団体へ見学

図一 緑地管理団体における活動内容の変遷等を示した年表

などの公害が悪化した。しだいに自然環境の悪化に対して住民が反発し、賛同する地元有志が組織を結成して、署名運動を行ったのちに市役所へ請願要請し、市から団体発足の許可が下りて団体が発足し、自然保護運動が活発化していった。その後、緑地に存在する希少種などの自然保護を主目的に、緑地管理団体として発足した。市民の緑の保全に対する強い要望に応え、市は1983年に「緑の保全と育成に関する条例」を制定し、開発の抑制のため民有地を借り上げ、その土地を緑地管理団体が管理することを認可していった。1970年代に設立された「七国山の自然を守る会」は市内における自然保護の先駆けとなり、そこを母体として1985年には、緑地管理団体の「町田かたかごの森を守る会」が、1990年には「成瀬の自然を守る会」が多摩丘陵の自然を守るために各地で活動を繰り返していった。

1990年代には、生涯学習の需要も高まり、1993年には市において市民を対象にした環境活動の担い手の養成機関「まちだ市民大学HATS」が開設された。その「まちだ市民大学HATS」を母体とし、市民大学卒業生が卒業生との交流を兼ねて、学んだ成果を活かして環境活動を行うことを主目的に、市民大学の卒業生が団体を発足した。1995年には市の「緑の基本計画」の中で「緑地保全の森設置要綱」が制定され、借り上げた民有地を買収する動きへと転化した。このように、緑地が確実に担保され、市民が緑地を管理するこの活動は浸透していき、次第に団体数は増加していった。

2000年代には、緑の基本計画改定へ向けた市と市民との議論の場や、樹林地を管理するための講習会等、市が設定した話し合いにて市が発足の話を持ちかけ、市が直接自治会を通して、自治会を母体として自治管理を主目的に緑地管理団体が発足するケースが見られ始めた。

2010年代には、様々な主体との連携が広がった。高校ではボランティア奉仕活動が単位に認定され、大学では緑地管理団体の緑地で授業を行うなど、教育機関と連携する機会が拡大している。

全体で見ると、従来の緑地管理団体の活動が、自然保護運動時の希少な動植物を保護していくことの緑地管理が主な活動であった時代から、今日

では緑地管理により自然を守りつつも、イベント運営により身近なレクリエーション・自然学習の場として緑地に公共性を持たせていくことも重要視されるようになり、緑地管理団体の活動が複雑化していることが見てとれる。

また、団体の活動に焦点を当てると、1～5年程の間は緑地管理が中心であり、イベント運営は低調である。6～10年程経つと緑地管理作業は草刈りや枝打ち、落ち葉掃きなど内容が固定化する一方で、イベント運営は多彩な内容に発展している。

(2) 参与観察調査による継続性の現況

参与観察調査により、18団体それぞれを母体となる団体（以後、母体組織と称する）ごとに『活動内容』『緑地管理の参加状況』の2つの視点から整理した（表-5）。

『活動内容』のうち「緑地管理」は、下草刈りや枝打ち、清掃は9割以上の団体で実施されている活動内容であり、「植物の育成管理の知識」を有する人材がいる団体の活動は、希少種の保全、再生や外来種の駆除等、緑地管理の活動内容がより具体的になる。「イベント運営（近隣住民等を対象）」は、8割以上の団体が、緑地内で収穫物の配布や、お花見、年中行事に合わせた企画等の催しを運営することで交流をはかる機会を設けている。これは、近隣住民との良好な関係が築くために必要とされる活動であると考えられる。「イベント運営（団体の会員を対象）」は、「団体の発足時期」が早い団体ほど活動内容が豊富であることから、会員同士の友好関係を継続的に築き、楽しみながら活動を続けていくためにも必要であると考えられる。

『緑地管理の参加状況』のうち「会員数に占める緑地管理の参加者数」では、緑地管理の参加者数は全団体のうち約5割の団体が10人前後である。「参加者の年代、男女比」では、50歳代以下の年代がみられず、全団体のうち約5割が60歳以上で活動している。「会員の役割分担」では、「全体マネジメント」「雑木林の管理技術」は約9割の団体でこの資質を持つ人材がみられた。「緑地管理の活動頻度」では、全団体のうち約9割が月1回以上開催している。これらは活動を継続していく上での最低限必要な条件と推定される。

表－5 緑地管理団体の活動内容と緑地管理への参加状況

No.	団体名	発足年	発足経緯	活動内容		緑地管理への参加状況					
				緑地管理	イベント運営 (近隣住民等を対象)	イベント運営 (団体の会員を対象)	会員数に占める参加者数	参加者の年代、男女比 (割合、定数)	参加者の役割 (人数)	緑地管理の活動頻度	
自治会協力型	3	きつねくぼ緑地愛護会	1997	自治会(町内会)	広場の草刈り、竹林間伐、野草庭の整備(雑草取り)と苗木の移植等、シタケの菌打ちと整備、枝打ち、落ち葉掃き、金庫の整備、下草刈り(クマザサや繁殖力の強い外来種除去)	山菜を味わう会、子ども一泊キャンプ、お月見とサマの会、どんど焼き等	総会、昼食、自然観察等	7/35	50～70代、7:3	全体マネージメント(2) 植物の育成管理の知識(2) イベントの運営(数名) 苗木の管理技術(4) 会費の回収(1)	月2回
	9	どんぐりの会	2004	自治会(町内会)	下草刈り、枝打ち等	樹木の伐木をしながら食事を楽しむ会等	-	6/6	40～60代、7:3	全体マネージメント(1) イベント運営(1) 苗木の管理技術(数名)	年6回
	10	三輪住宅あおび倶楽部	2004	自治会(町内会)	竹林整備、枝打ち、シタケの栽培等	花見、いも煮会、BBQ等(※母体組織にてどんと焼き)	-	3/5	60～70代、1:0	全体マネージメント(1) 苗木の管理技術(2)	月4回
	13	丸山谷戸山の会	2006	自治会(町内会)	雑木林の保存、遊歩道の整備、耕作放棄地周辺の草刈り、農道、あぜ道の維持管理、畑の管理等	カブトムシの幼虫提供、自然観察会でのジャガイロ栽培、園地祭りでジャガイロ提供、サツマイモの収穫と焼き芋体験、サトイモと大根の収穫体験、収穫祭等(※母体組織の有志が任意で参加)	-	40/50	30～70代、4:1	全体マネージメント(数名) イベントの運営(数名) 苗木の管理技術(数名)	月2回
	14	成瀬山の自然を守る会	2006	自治会(町内会) おやじの会	緑地高刈、清掃、下草刈り、枝打ち、芝生の除草抜き、コスモスづくり、倉庫の整備、シタケの栽培、地際線の作成等	花見、カブトムシの幼虫提供、コスモス祭等	総会、おやじの会(料理を楽しむ会)等	6/19	30～60代、1:0	全体マネージメント(2) イベントの運営(数名) 苗木の管理技術(2) 調理の担当(1)	月3回
	16	栗駒北緑地を守る会	2007	自治会(町内会)	竹林伐採、下草刈り(野生したクズ等)、畑の管理、キノコ作り、ハマナツメの増殖と手入れ等	自治会へジャガイロを提供	総会等	10/20	60～70代、1:0	全体マネージメント(1) イベントの運営(数名) 苗木の管理技術(数名)	月3回
	17	けやき通り緑地保全クラブ	2008	自治会(町内会) 家族会等	下草刈り、清掃、不法投棄の回収等	総会等	総会、雑談会(※年々、暑気払い)、おやじの会(料理を楽しむ会)等	3/3	70代、1:0	全体マネージメント(数名) 苗木の管理技術(数名)	月1回
	18	栗駒西公園を考える会	2009	自治会(町内会)	下草刈り、枝打ち等	-	-	10/28	30～60代、2:1	全体マネージメント(1) 苗木の管理技術(数名)	月1回
	養成機関起原型	7	三輪みどりの会(三輪緑地・二本松下地区)	2002	まちどづくり大学 HATS	3ヶ所に活動の幅を広げて活動。緑地の管理(草刈り、雑草取り)、休耕田の耕作・整備、管理地内の自然観察・記録等	竹の子掘り、いも煮会、餅つき大会等	野草観察、野鳥観察、昆虫観察、昼食、同系団体との交流等	10/70	30～70代、3:2	全体マネージメント(1名) イベントの運営(数名) 売し入れの調整(数名)
11		みどりのHATS	1993	まちどづくり大学 HATS	清掃、枝打ち、下草刈り、落ち葉掃き等(キランラ、ギンランの保全のため)	境川クリーンアップ作業(環境活動)への参加等	総会、ハイキング、同系団体との交流等	20/30(母体となる団体10名)	30～70代、7:3	全体マネージメント(数名) 植物の育成管理の知識(数名) イベントの運営(数名) 苗木の管理技術(数名)	月1回
12		成瀬三ツ又緑地の会	2005	まちどづくり大学 HATS	下草刈り、シタケの栽培等	-	総会、食事会等	4/8	60～70代、1:0	全体マネージメント(2) 苗木の管理技術(数名)	月2回
1		町田かたかごの森を守る会	1986	非営利団体(七瀬山の自然を守る会)	距離に分かれて活動。森の管理作業(散材撤去の点検、木の伐採、薪集めの製作等)、森の管理(カタクリの保全のための管理や土壌の調査、カタクリの栽培と移植等)、野草庭の耕作と管理等(春の7草の自作、イベント時に必要な天ぷらと野草茶の準備等)	カタクリ一般公開、野草田まつりに出店等	昼食、総会、7草祭りを企画、秋の祭典ハイキング、忘年会、同系団体との交流等	15/33	50～80代、1:1	全体マネージメント(数名) 植物の育成管理の知識(2名) イベントの運営(数名) 苗木の管理技術(数名) 昼食の調理(数名)	月3回
地元有志結成型	2	かしの木山自然公園愛護会	1986	地元有志	樹林帯の清掃、下草刈り、枝打ち等(※母体組織のうち任意で参加。活動は町に分れて行う)。主な活動は清掃・昆虫・野鳥観察会)	夏休み子ども自然教室、かしの木フェスタ等	総会、研修、特別講演、自然観察、同系団体との交流等	10/250(母体組織は5250名)	50～70代、1:1	全体マネージメント(数名) 植物の育成管理の知識(数名) イベントの運営(数名) 苗木の管理技術(数名) 会費の回収(1)	年2回(開催している公園へは月1回の参加)
	4	熊谷西緑地 樹の会	1998	熊谷の森を守る会(熊谷の自然を守る会)	草刈り等緑地の管理、植栽、キノコの菌打ち、ヤマメの飼育等	多摩川放つツバまつり、ヨネボの餅つき、中マスの炭焼きバーベキュー、しめ縄作り等	総会、ハイキング、登山等	10/25	50～70代、1:1	全体マネージメント(数名) イベントの運営(数名) 苗木の管理技術(数名) 売し入れの調整(数名) 会費の回収(1)	月2回
	15	成瀬の自然を守る会	1989	非営利団体(七瀬山の自然を守る会)、町田かたかごの森を守る会	清掃、植物観察、枝打ち、野草園、危険箇所の手直し、ネザサ刈り、遊歩道、シタケの栽培等	野鳥観察会、樹名取付け、ヤチ観察会、里山の秋を楽しむ会等	総会、雑談会(雑談会)、研修会(旅行)、同系団体との交流等	15/72	30～70代、1:1	全体マネージメント(2) 植物の育成管理の知識(数名) イベントの運営(数名) 苗木の管理技術(数名) 売し入れの調整(1) 会費の回収(1)	月2回
特定の団体移行型	5	町二小いなかほ	1982	町二小いなかほ会	マダケの刈り取り、近隣の清掃等	タケノコ掘り等(※母体組織にて、益譲り大会)	花見会等(※母体団体にて総会等)	15/17(母体となる団体は約250名)	50～70代、1:0	全体マネージメント(3) 苗木の管理技術(数名)	年4回
	6	特定非営利活動法人「みどりのゆび」	2001	特定非営利活動法人「みどりのゆび」	竹林防伐、畑の管理等(※母体組織の有志が任意で参加)	竹の子掘り等(※母体組織にて多摩川放つツバまつり、田舎暮らし、そのほか団体の所属するアツパス協会の総会)	-	10/144(母体となる団体は144名)	50～70代、2:1	全体マネージメント(1) 植物の育成管理の知識(数名) 会費の回収(1)	年4回
	8	境川森野緑地の会	2002	非営利団体(境川の自然を守る会)	清掃、下草刈り(繁殖力の強い外来種除去)、ハイオキア属種の除去、野鳥の観察、井戸の補修、道路の整備等	-	総会、山菜の天ぷら会等	8/10	30～70代、4:1	全体マネージメント(2) 植物の育成管理の知識(数名) 苗木の管理技術(数名)	月1回

(3) 発足形態による4つの類型化

文献調査と参与観察調査、ヒアリング調査により、母体組織から派生・分離して新たな緑地管理団体を形成するまでの経緯が団体の継続性に影響していると判断し、この経緯を“発足形態”とし、

発足形態別に4つの類型化を行った。それぞれの類型に対する特徴は以下のようになる(表-6)。(i)「自治体協力型」

団体3, 9, 10, 13, 14, 16, 17, 18は、緑地が位置する地域の自治会(町内会)で、市より緑

表一 6 発足形態による 4 つの類型

	母体組織	発足時の理念や目的	類型ごとの発足経緯	No	団体名	各団体の発足時期	各団体の発足経緯
自治会協力型	自治会 (町内会)	地域内の自治管理	<p>緑地が位置する地域の自治会(町内会)に、市より緑地管理団体の設立の要請があり自治会が呼びかけて希望者を募り、それを市が認可し、発足</p>	3	きつねくぼ緑地愛護会	1997	元建設会社の土地に建設途中の建物があり、廃壊と化した建物は不健全な使われ方になった。それを心配した地域住民が市に買い上げを求め、それと同時に地元有志が団体を立ち上げ活動が開始された。
				9	どんぐりの会	2004	地主の所有地の維持管理が困難であり、市役所へ相談したところ「緑地保全の森」制度の紹介を受け、自治会で参加者を募り団体を立ち上げ活動が開始された。
				10	三輪住宅おおば倶楽部	2004	同地に公園または緑地を確保することが決まり、一部の住民がそれに賛同し、自分たちの地域を自分たちの方で守ると団体が立ち上がり管理が開始された。
				13	丸山谷戸山の会	2006	市有地になった際、同地を民間企業が所有しているときに農園として利用していた住民が、団体を立ち上げ引き続き管理を行っている。
				14	成瀬山の自然を守る会	2006	同地に開発していくのを見かねた住民が、地元「おやどの会」という団体を中心にメンバーを募り、その有志で管理を行いたいと市へ申し出をし、団体を立ち上げ活動を開始した。
				16	薬師池北緑地を守る会	2007	市主催の「谷戸山管理講習会」の参加者が団体を立ち上げ同地を紹介し、活動が開始される。
				17	けやき通り緑地保全クラブ	2008	市役所側が地元で管理を行なってくれる方がいるか自治会に相談し、参加者を募り、活動が開始された。同地は景観に対し評価がされておりまちなみ景観委員会があるため、委員会に属する方に依頼があり、その方を中心に活動の準備がはじまった。
				18	薬師池西公園を考える	2009	同地に公園建設の計画があり、それに興味のある地元住民が団体を立ち上げ、自分たちの地域は自分たちで守って行こうと管理が始まった。
				養成機関起源型	まちだ市民大学 HATS	学んだ成果を活かし環境活動を行うこと	<p>養成機関である「まちだ市民大学HATS」を卒業した人たちが、学んだ成果を活かして環境活動を行うために発足</p>
7	三輪みどりの会 (三輪緑地 相ヶ谷地区)	2003	同地に公園または緑地を確保することが決まり、一部の住民(市民大学の卒業生)がそれに賛同し、自分たちの地域を自分たちの方で守ると団体が立ち上がり活動が開始される。2箇所目				
7	三輪みどりの会 (三輪南谷緑地)	2008	同地に公園または緑地を確保することが決まり、一部の住民(市民大学の卒業生)がそれに賛同し、自分たちの地域を自分たちの方で守ると団体が立ち上がり活動が開始される。3箇所目				
11	みどりのHATS	1993	1993年から市民大学(HATS)の卒業生で構成された団体が、市民大学で学んだことを生かす場所を探していると市役所へ相談があり、市役所が同緑地を紹介し2005年から緑地管理の活動が開始される。				
12	成瀬三ツ又緑地の会	2005	市民大学(HATS)の卒業生で構成された団体が、市民大学で学んだことを生かす場所を探していると市役所へ相談があり、市役所が同地を紹介し活動が始まる。				
地元有志結成型	非営利団体「七国山の自然を考える会」	自然保護	<p>緑地を開発から守るため地元有志が活動組織を結成し、市が許可して生まれた</p>	1	町田かたかごの森を守る会	1986	カタクリの自生地を保護するため、元々自然保護運動を行っていた団体の初代会長が市に働き掛け保護が実現し、その保護した同地の管理をその団体の一部の会員が協力することになった。
				2	かしの木山自然公園愛護会	1986	同地に隣接するかしの木山自然公園は元企業の試験林で、試験林が不要となり、売却されることを阻止するために地元有志が会を立ち上げ保全することになった。同緑地は、かしの木山自然公園に隣接しているため公園の活動と合わせて管理が行われている。
				4	龍ヶ谷西緑地 樹の会	1998	龍川地域の自然を保護する団体があり、そこから分離し独自の活動を始めた。
				15	成瀬の自然を守る会	1989	成瀬台に「成瀬奈良谷戸緑地」と言う都市緑地があり、その管理を行なっている団体で、成瀬周辺の自然保護に力を入れており、同地に管理団体が無いのならば、市役所に管理の申し出があり、活動が始まる。
				特定の団体移行型	町三小いなほ会	卒業生との交流、周辺住民へ貢献	<p>様々な環境活動や奉仕活動をしている団体が、社会ニーズの変化に伴い、一部のメンバーが緑地管理活動へ移行し、それを市が認可して生まれた</p>
特定非営利活動法人「みどりのゆび」	フットパスを用いた地域づくり	6	特定非営利活動法人「みどりのゆび」		2001	龍川地域の自然を保護する団体があり、そこから分離し独自の活動を始めた。地域づくりに取り組み、その一部の会員が同地の管理を始める。	
非営利団体「境川の斜面緑地を守る会」	境川の環境を中心に次世代への自然の保護	8	境川森野緑地の会		2002	自然保護を行う団体が相模原市と町田市にあり、その一部の会員が同地の保護を市役所へ働きかけ保護が実現され、同時に管理が始まる。	

地管理団体の設立の要請があり自治会が呼びかけて希望者を募り、それを市が認可し、発足した団体であるため、「自治会協力型」と名付ける。発足した時期は1996～2009年であり、新しく発足した団体が多く、若い年代が比較的多いのが特徴であるが、性別や年代、特に緑地管理に関する役割を担う人材の不足が目立つ。活動は初期の段階のため労力のかかる作業に対処するための技術的指導や、道具の提供が求められる。緑地近隣に住む住民で構成される自治会（町内会）の会員を中心としており、生活環境の維持や管理のために活動しているため活動に対してはやや受動的になる。

(ii) 「養成機関起源型」

団体7, 11, 12は、市主催の養成機関である「まちだ市民大学 HATS」を卒業した人たちが、学んだ成果を活かして環境活動を行うために発足した団体であるため、「養成機関起源型」と名付ける。発足した時期は、市民大学が設立された1993年以降に発足し、1995年以降に生まれた。意欲をもって養成機関で学んだのちに発足した団体であるため、能動的に活動を行う。緑地が位置する地区に住む近隣住民との接点は少ないため、近隣住民から苦情があるなどの問題が生じることもある。

(iii) 「地元有志結成型」

団体1, 2, 4, 15は、緑地を開発から守るため地元有志が活動組織を結成し、市が活動を許可して生まれた団体であるため、「地元有志結成型」と名付ける。発足した時期は1985～1996年であり、活動の早期開始による自立性、人材と活動内容の多様さがみられる反面、構成するボランティアの高齢化、若い世代（50歳代以下）の不足、初期から所属するメンバーが縄張りを主張するなどの課題があると考えられる。

(iv) 「特定の団体移行型」

団体5, 6, 8は、様々な環境活動や奉仕活動をしている団体が、社会ニーズの変化に伴い、一部のメンバーが緑地管理活動へ移行し、それを市が認可して生まれた団体で、「特定の団体移行型」と名付ける。

発足した時期は1982～2002年と様々である。母体となる団体が人数の多い大規模な団体である

ため、明確な目的を持ちリーダーを中心に活動を手広く行っているが、活動範囲が広いために緑地管理の活動は能動的に取り組みにくい。

(4) 多変量解析を用いた満足感と閉塞感の構造

アンケートの回収結果は、対象者への配布数が219票、回収数は185票（有効回答数167票、回収率84.4%）であった（表-7）。この対象者に関する団体の活動の継続性について、多変量解析を用いて満足感と閉塞感の両者における因果関係を類型ごとに明らかにした^{14) 15) 16)}（表-8、表-9）。

主成分分析により分類した結果、第1主成分は全ての項目ともに正の値であるため、『総合得点』を表す主成分とした。第2主成分は「活動に対する満足感」「会員に対する満足感」に対して主成分負荷量は正の値であり、「管理水準に対する満足度」「緑地の自然や景観に対する満足度」の主成分負荷量は負の値のため、『活動で重視する対象（人重視・緑地重視）』を表す主成分とした。

また、閉塞感についてアンケートで得られた得点を因子分析（最尤法、プロマックス回転）により抽出した結果、第1因子は「利用者との交流不足」「市との交流不足」「会員同士での交流不足」「活動への積極性不足」の因子負荷量が高いため、『他者との交流』に関する因子とした。第2因子は「同系統団体の参加抵抗」「経験ある者の参加抵抗」の因子負荷量が高いため、『他者の柔軟な受け入れ』に関する因子とした。第3因子は「従来のやり方の堅持」「新規企画に対する関心の希薄」の因子負荷量が高いため、『新しいやり方の受け入れ』に関する因子とした。第4因子は「年齢」「所属年数」の因子負荷量が高いため、『活動量』に関する因子とした。

第4因子の「年齢」「所属年数」「活動に対する疲労感」のうち、「活動に対する疲労感」のみ、因子負荷量が負の値であるため、「年齢」「所属年数」があがるにつれて、「活動に対する疲労感」は感じにくくなるという解釈ができる。

緑地管理団体に所属する会員個人の満足感による主成分得点と閉塞感による因子得点を18の団体別に振り分け、主成分得点と因子得点の平均値を抽出し、更に発足形態による4つの類型別にまとめ、その平均値を抽出した（表-10、表-11、表-12、表-13、図-3、図-4）。

表-7 団体毎のアンケート回収数

団体名	有効回答数
町田かたかごの森を守る会	20
かしの木山自然公園愛護会	5
きつねくぼ緑地愛護会	13
能ヶ谷西緑地 樹の会	10
町三小いなほ会	7
非営利活動法人「みどりのゆび」	4
三輪みどりの会	9
境川森野緑地の会	3
どんぐりの会	2
三輪住宅あおば倶楽部	4
みどりのHATS	16
成瀬三つ又緑地の会	5
丸山谷戸山の会	16
成瀬山の自然を守る会	14
成瀬の自然を守る会	10
薬師池北緑地を守る会	6
けやき通り檜緑地保全倶楽部	4
薬師池西公園を考える会	6
無回答	12

(アンケート回収期間：2011年7月7日から8月1日)

n=167

表-8 満足感の主成分分析結果

主成分名	主成分1	主成分2
	総合得点	人重視・ 緑地重視
活動内容(緑地管理)に対する満足度	.788	.207
管理水準に対する満足度	.757	-.246
緑地の自然や景観に対する満足度	.659	-.605
会員に対する満足度	.595	.709
累積寄与率	48.720	73.663
固有値	1.949	0.998

表-9 閉塞感の因子分析結果

因子名	因子1	因子2	因子3	因子4
	他者との交流	他者の柔軟な 受け入れ	新しいやり方の 受け入れ	活動量
会員同士での交流不足	.642	.013	-.275	-.242
行政との交流不足	.639	-.022	.092	.130
利用者との交流不足	.558	-.027	.065	.169
活動への積極性不足	.538	.022	.045	.035
経験のある者の参加抵抗	-.023	1.003	-.037	.041
同系統団体の参加抵抗	.010	.337	-.026	-.044
新規企画に対する関心の希薄さ	.217	.052	.826	-.118
従来のやり方堅持	-.125	-.124	.407	.035
所属年数	.165	-.015	-.098	.577
年齢	.132	-.033	-.044	.358
活動での疲労感	.040	-.049	-.046	-.268
累積寄与率	19.698	33.774	45.865	56.675
固有値	2.158	1.557	1.330	1.189

表一 10 団体別にみた満足感の主成分得点

	団体名	主成分1	主成分2
		総合得点	人重視型・ 緑地重視型
自治会協力型	9. どんぐりの会	1.33	0.057
	16. 薬師池北緑地を守る会	0.745	0.32
	10. 三輪住宅あおば倶楽部	0.687	-0.612
	13. 丸山谷戸山の会	0.427	-0.02
	17. けやき通り檜緑地保全クラブ	0.21	0.376
	3. きつねくは緑地愛護会	0.04	-0.184
	18. 薬師池西公園を考える会	-0.102	-0.156
	14. 成瀬山の自然を守る会	-0.204	0.276
養成機関起原型	7. 三輪みどりの会	-0.247	-0.56
	11. みどりのHATS	-0.377	0.334
	12. 成瀬三つ又緑地の会	-0.505	0.302
地元有志結成型	15. 成瀬の自然を守る会	0.024	-0.338
	4. 能ヶ谷緑地 樹の会	-0.022	0.0549
	1. 町田かたかごの森を守る会	-0.211	-0.171
	2. かしの木山自然公園愛護会	-0.703	0.958
特定の団体移行型	8. 境川森野緑地の会	0.074	-0.062
	6. 特定非営利活動法人みどりのゆび	0.07	-0.742
	5. いなほ会	-0.042	0.446
	無回答	0.2	-0.026

参与観察調査の結果、明らかになった4つの類型に対して、多変量解析の結果を照合すると以下のように考察できる。

(i) 「自治会協力型」

「満足感」に関して、『総合得点』の因子負荷量が0.225であり4つの分類型のうち最も高い。これは、発足時の理念や目的が自治管理であり、緑地のある地区の住民で成り立つため、緑地の近隣住民との関係を活動によって良好に行っている団体が多いことによる。また、緑地管理では生い茂った緑地の草刈りなどが中心であるため活動の達成感も高く、満足感も比較的高くなる。多くが新しい団体なので課題認識を持ちにくい。

「閉塞感」のうち、『活動量』は-0.137であり、2004年から2009年の新しく発足した団体が多いため低い値となった。

(ii) 「養成機関起原型」

「満足感」のうち、『総合得点』は-0.359であり4つの類型のうち最も低い。これは、発足時の理念や目的が市民大学で環境問題などを学んだことの実践であるため、課題認識が高い。そのため満足感は一層厳しく捉えられ低い値となる。

「閉塞感」のうち、『他者との交流』は-0.321、『活動量』は-0.237と低い。

「全体マネジメント」の役割を持つ人材は多く、会員同士の交流には工夫を凝らしているが、会員の中に緑地の近隣に住む者は少なく、緑地の近隣住民と良好な関係を築きにくい点がある。また、『活動量』では、比較的頻繁にメンバーの入れ替わりがあり流動的なため、『所属年数』の蓄積は少ない。

表一 11 団体別にみた閉塞感の因子得点

	団体名	因子1	因子2	因子3	因子4
		他者との交流	他者の柔軟な受け入れ	新しいやり方の受け入れ	活動量
自治会協力型	10. 三輪住宅あおば倶楽部	0.852	0.026	-0.36	-0.067
	13. 丸山谷戸山の会	0.516	-0.365	0.358	0.086
	9. どんぐりの会	0.406	-0.785	-0.742	-0.586
	18. 葉師池西公園を考える会	0.361	0.161	0.493	-0.653
	17. けやき通り檜緑地保全クラブ	0.213	0.318	-0.073	-0.705
	3. きつねくぼ緑地愛護会	-0.098	0.399	-0.082	0.162
	16. 葉師池北緑地を守る会	-0.233	0.464	-0.198	-0.249
	14. 成瀬山の自然を守る会	-0.5	-0.093	0.205	-0.192
養成機関起源型	12. 成瀬三つ又緑地の会	0.188	-0.01	0.329	-0.246
	11. みどりのHATS	-0.366	0.217	-0.341	-0.448
	7. 三輪みどりの会	-0.523	-0.129	0.538	0.143
地元有志結成型	2. かしの木山自然公園愛護会	0.631	-0.059	-0.368	0.563
	15. 成瀬の自然を守る会	0.222	-0.252	0.539	0.623
	1. 町田かたかごの森を守る会	0.051	-0.219	0.004	0.554
	4. 能ヶ谷緑地 樹の会	-0.116	0.066	0.104	0.16
特定の団体移行型	5. 町三小いなほ会	0.307	0.367	-0.325	-0.2
	8. 境川森野緑地の会	0.263	-0.939	-0.026	-0.635
	6. 特定非営利活動法人みどりのゆび	-0.27	0.548	0.455	0.477
無回答		-0.254	0.055	-0.865	-0.334

表一 12 類型別にみた満足感の主成分得点

主成分名	主成分1	主成分2
	総合得点	人重視・緑地重視
i. 自治会協力型	0.225	0.02
ii. 養成機関起源型	-0.359	0.06
iii. 地元有志結成型	-0.171	-0.032
iv. 特定の団体移行型	0.015	-0.002
無回答	0.2	-0.026

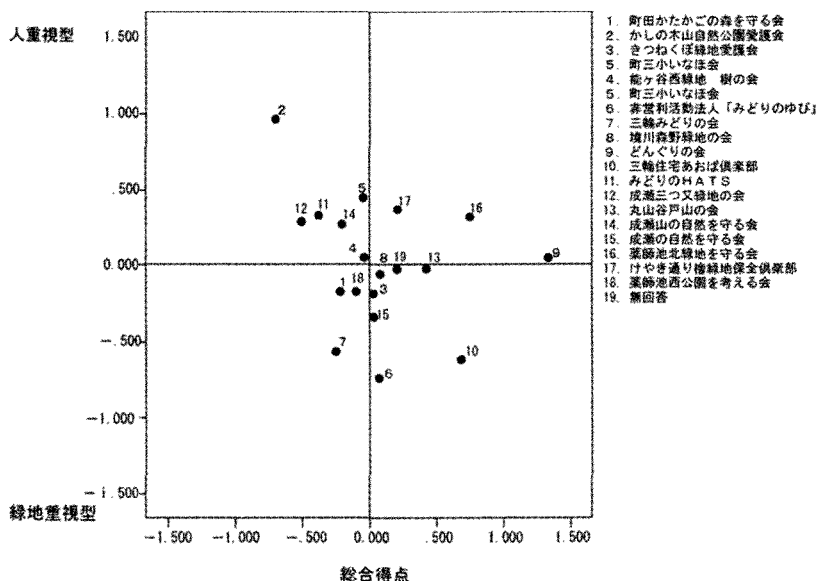
(iii) 「地元有志結成型」

「満足感」のうち、『総合得点』は-0.171であった。発足時の理念や目的が次世代に自然を残すためであり、長期に渡り活動しているため、「植物の育成管理の知識」を有する人材が多い。開発が進んだ時期に発足した背景もあるため、課題認識

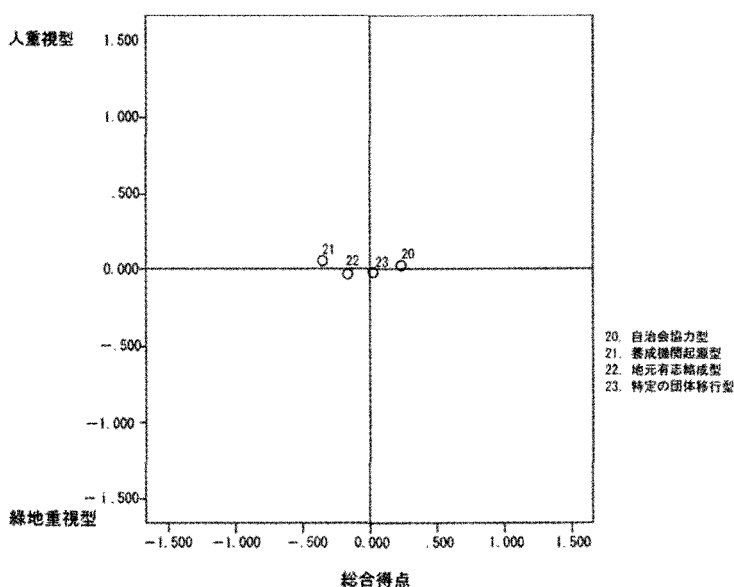
も高い。よって、厳しく捉えられ満足感は低くなる。市内の自然保護運動の先駆けとなり他機関からの表彰、地方紙の取材などを受け評価されているため、満足感は養成機関起源型よりは低くならない。「閉塞感」のうち、『他者との交流』は0.113、『他者の柔軟な受け入れ』は-0.145、『活動量』は0.483であった。高校生ボランティア、大学の実習、市民大学の講義や実習の受け入れ、同系統団体との交流、会員との研修旅行など様々な団体と積極的に交流し、会員同士でも親睦を深めるよう心掛けている。また、古くから発足している団体であるため、所属年数が高い会員もおり、長く団体を続けていくためにも他者との交流などに積極的であるが、団体への帰属意識が強くなり、他者の柔軟な受け入れに消極的な面もあるといえ

表一 13 類型別にみた満足感の主成分得点

	因子1	因子2	因子3	因子4
因子名	他者との交流	他者の柔軟な受け入れ	新しいやり方の受け入れ	活動量
i. 自治会協力型	0.09	0.025	0.093	-0.137
ii. 養成機関起源型	-0.321	0.075	0.035	-0.237
iii. 地元有志結成型	0.116	-0.145	0.104	0.483
iv. 特定の団体移行型	0.133	0.139	-0.038	-0.1
無回答	-0.254	0.055	-0.865	-0.334



図一 3 緑地管理団体 (18 団体) の主成分得点の散布図



図一 4 発足形態による 4 つの類型の主成分得点の散布図

る。長期間活動を続けているため、緑地管理は固定化がみられるが、その反面でイベント運営など新しい企画を取り入れている。活動の度に昼食を会員と共にとることや会報の作成による情報の発信など、会員の持つ技能を活かしてイベント運営に多様性を持たせている。

(iv) 「特定の団体移行型」

「満足感」のうち、『総合得点』は 0.015 であり平均に近い値であった。「閉塞感」に関して、『他者との交流』は 0.133、『他者の柔軟な受け入れ』は 0.139 であった。母体組織で交流を行ったり、母体組織から流動的に参加する会員もいるため、交流や受け入れには寛容であるといえる。

(5) 継続性へ向けた具体的な対応策

(i) 類型別にみた継続性へ向けた対応策

表-14 でまとめた結果をふまえ「自治会協力型」「養成機関起源型」「地元有志結成型」「特定の団体移行型」の 4 つの類型別による、継続性へ向け優先すべき具体的な対応策は以下のように考察した。

①自治会協力型は、「植物の育成管理の知識」を有する人材の確保と、イベント運営の充実が求められる。

②養成機関起源型は、「植物の育成管理の知識」を有する人材の確保と、近隣住民との良好な関係

作りが必要である。

③地元有志結成型は、50 歳代以下の若い年代の人材の確保と、他者を柔軟に受け入れていくことが必要である。

④特定の団体移行型は、リーダー以外に全体マネジメントを行う人材の確保と、コアメンバーによる活動参加の固定化が必要である。

(ii) 総合的にみた継続性

団体の活動の継続性において、留意する点は①様々な人材でコアメンバーが構成され、定期的に活動を行うこと、②活動の中で、会員が技能を活かして役割を担うこと、③イベント運営において多くの主体と交流を通じ、活動が評価されていくことである。主体のうち特に近隣住民から活動に対する理解を得ることが必要である。これらの 3 点が継続性を促進する主な要因であることがあげられる。

(iii) 継続性の対応策を具現化する上での課題

①団体は活動を長期間続けていくことで、他者の柔軟な受け入れに対し、消極的になる傾向がみられることは認められたが、閉塞感の構造の把握を明らかにするところまでは至っていない。

今後、更に高齢化による世代交代も進み、新しい会員の受け入れの重要性が高まる中で、閉塞感の構造を把握することは現団体の継続性の向上に

表-14 緑地管理団体の類型別にみた継続性へ向けた対応策

発足形態別にみた4つの類型	文献調査・参与観察調査			アンケート調査 (主成分分析と因子分析)		継続性の対応策
	発足時の理念や目的	活動内容	緑地管理の参加状況	満足感	閉塞感	
自治会協力型	地域内の自治管理	主に周辺住民へのイベント運営重視	・特に「植物の育成管理の知識」を有する人材が少ない	高い	「他者との交流」が低い	・「植物の育成管理の知識」を有する人材の確保 ・イベント運営の充実
養成機関起源型	学んだ成果を活かし環境活動を行うこと	緑地管理とイベント運営双方共に重視	・特に「植物の育成管理の知識」を有する人材が少ない ・近隣住民との接点は少ない	低い	「他者との交流」が低い	・「植物の育成管理の知識」を有する人材の確保 ・近隣住民と良好な関係づくり
地元有志結成型	自然保護	緑地管理とイベント運営双方共に重視	・高齢化の進行 ・人材が豊富 ・初期から所属するメンバーの縄張り化	やや低い	「他者の柔軟な受け入れ」が低い	・50歳以下の若い年代の会員の確保 ・新しい会員の積極的受け入れ
特定の団体移行型	個々で異なる	イベント重視	・リーダーを中心に活動を手広く行っている	やや高い	「他者との交流」が高い 「他者の柔軟な受け入れ」が高い	・リーダー以外に全体マネジメントを行う人材の確保 ・コアメンバーによる活動参加の固定化

寄与することと考えられる。

②緑地管理団体のようなボランティアは自発性・利他性・無償性¹¹⁾の活動を前提としていて、その上このような活動に参加する高齢者は活動に対して意欲的である⁴⁾ため、一般的に活動に対して参加者の意識の差は定量的に把握しにくい⁶⁾といわれている。本研究において、満足感と閉塞感の2つの側面で類型別に差異を明らかにしたが、明瞭な違いが認められなかった。このため、団体の活動に対する意識は等質性が高く、意識の定量的な把握に限界があると考えられる。

4. まとめ

本研究では団体の活動の継続性を明らかにするため、文献調査と参与観察調査をもとに発足形態による類型化を行い、特性に応じて満足感と閉塞感の特性を把握した(表-14)。

①団体では発足時の理念や目的に応じて、満足感の得られ方に相違が見られることが明らかになった。それにより、養成機関起源型と地元有志結成型のように、市民が能動的に活動を立ち上げた団体は、自然保護や学んだ成果を活かし環境活動を行う等の発足時の理念や目的に対する課題認識が高いことが認められた。

②発足経緯の類型から今後も発足する可能性が最も高い類型を推察すると、自治会協力型と養成機関起源型であり、発足したばかりの新しい団体への支援には、「雑木林の管理技術」と「全体マネジメント」の役割を持つ人材を交えること、10人程度の規模で行うこと、月1回以上の活動を行うことが不可欠である。そのため、様々な役割を持つ人材が多く存在する地元有志結成型による支援など、同系統の団体同士の繋がりをつくり、交流を深めていくことも一つの策である(表-14)。

③会員の担う役割のうちとくに「植物の育成管理の知識」を有する人材が活動内容を多様化させていくための活力になり得ることが明らかになった。

④本研究の対象地である東京都町田市のように自然的要素が高く都市近郊に位置し、緑地管理の活動を行う団体では、本研究の発足形態の類型や、団体や会員の特性が適応しうるものと考えられる。

⑤これまでボランティア団体の評価が定量的に

把握されたことは少ない。現団体の継続へ向けた支援の方法を模索するため、また、新しく発足する団体の発足へ向けた計画に役立てるため、このような定性的・定量的に検証する方法を用い、客観的に複数の団体の特徴を掴むことは重要であると考えられる。

謝辞

本稿執筆にあたり、ご協力頂きました町田市公園愛護会の皆様、町田市公園緑地課林田隆幸氏に、厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 1) 四手井綱英、里山のこと、関西自然保護機関誌 22(1)：71-77、2000
- 2) 金子忠一・内山正雄、都市公園の管理体制について研究、造園雑誌 46(5)：99-104、1983
- 3) 松村正治、里山ボランティアにかかわる生態的ポリティクスへの扱い方—身近な環境調による市民デザインの可能性—、環境社会学研究 13：143-157、2007
- 4) 田尾雅夫、高齢者就労の社会心理学、ナカニシヤ出版：121-131、153-155、2001
- 5) 奥敬一、現代の里山をめぐる背景の変化、ランドスケープ研究 74(2)：82-85、2010
- 6) 木平勇吉、みどりの市民参加—森と社会の未来をひらく—、日本林業調査会：3-5、2010
- 7) 藤沢浩子、自然保護分野の市民活動の研究—三浦半島・福島・天新崎・柿田川・草津の事例から—、芙蓉書房出版：37-44、190、2011
- 8) 松村正治、里山ボランティアにおける自由の条件——人間—植物関係の批判社会学試論、恵泉女学園紀要：48-68、2009
- 9) 藤本真里・赤澤宏樹・鳴海邦碩・中瀬勲、兵庫県有馬富士公園における住民グループの主体的活動とその継続の要因に関する研究、ランドスケープ研究 71(5)：811-816、2008
- 10) 平松玲治、国営公園における市民参加活動の導入と展開に関する研究、ランドスケープ研究 74(5)：565-570、2011
- 11) 田尾雅夫、ボランティア—組織の経営管理、有斐閣：48-53、1999
- 12) 上田早織、都市近郊における緑地保全活動団

- 体の継続及び活性化の要因について、レジャーレクリエーション研究第 65 号：20-23、2010
- 13) 川喜田二郎、発想法、中公新書：26-58、1967
- 14) 谷富夫・芦田徹郎、よくわかる質的社会調査技法編、ミネルヴァ書房：46-53、170-173、2010
- 15) 内田治、すぐわかる SPSS によるアンケート
の多変量解析、東京図書：142-163、2003
- 16) 石村貞夫、多変量解析による環境統計学、共立出版：34-73、2009
- 17) 管民郎、初心者がらくらく読める多変量解析の实践(上)：現代数学者、128-191、2000
- (受付：2012 年 5 月 16 日)
(受理：2012 年 12 月 10 日)